

平成 26 年度さが水ものがたり館運営業務委託

成 果 の ま と め

平成 27 年 3 月

特定非営利活動法人嘉瀬川交流軸

1. 業務の概要

- 1) 業務名 平成26年度さが水ものがたり館運営業務委託
- 2) 業務期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日まで
- 3) 目的 本業務は、「さが水ものがたり館」（以下「館」という）において、成富兵庫茂安、石井権に関する歴史資料及び嘉瀬川流域の防災関連資料等の収集整理・企画展示を行い、佐賀平野の治水・利水について地域住民への周知と理解促進を図ることを目的とする
- 4) 運営目標 次の運営目標を掲げてさが水ものがたり館を運営した。
- ① 成富兵庫茂安から現代に続く水の歴史と、水の重要性と怖さを次世代に伝える。
 - ② 防災・減災の技術とシステムについて、地域の人々とともに考え、災害に備える。
 - ③ 「上流は下流に心を配り、下流は上流に感謝する」（宮崎善吾元佐賀県副知事）「水恵無限」（姉川治元嘉瀬川ダム対策協議会会長）を導きの言葉として、嘉瀬川ネットワーク意見交換会などを企画し、嘉瀬川上下流交流に取り組む。
 - ④ 川の魅力を体感できる体験型学習会、防災・歴史ウォーキング等のイベントを開催し、水の魅力と怖さを次世代に伝える。
 - ⑤ 全県的に組織された佐賀水ネットの一員として、嘉瀬川ネットワークの拠点機能の役割を果たす。
 - ⑥ 筑後川、矢部川などの有明海に流入する河川、那珂川、室見川などの博多湾に流入する河川で活動する諸団体との交流を深める。

5) 業務内容

1. さが水ものがたり館の運営：

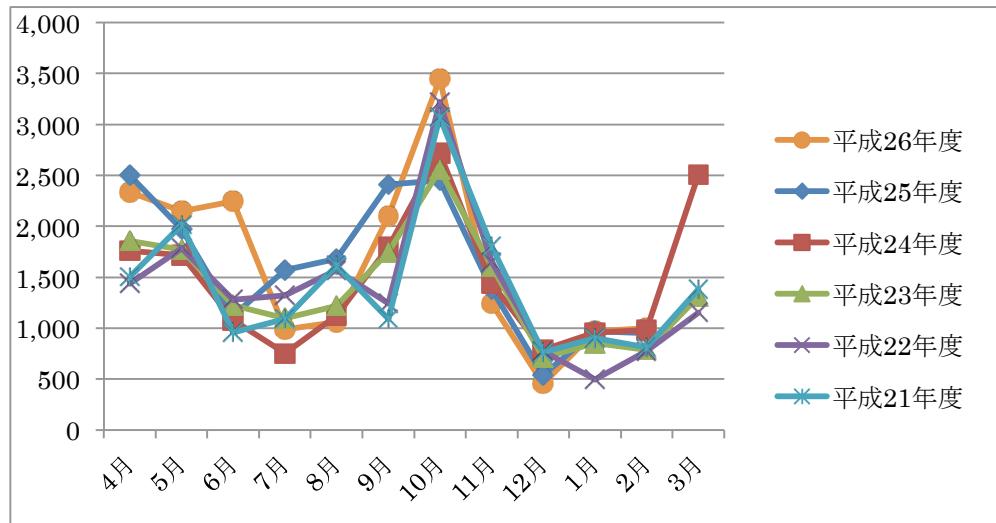
当初計画通り、月曜休館日（月曜日が祝日の場合は火曜日が休館）を除く週6日、館を開場し、展示物の展示、来訪者への説明、各種イベントの開催、館の清掃等を行った。

平成26年度の年間総来場者数は、2月までで17,987人で、最近6年間中で最高の来場者数となった。月別にみると、7月の来場者数の落ち込みが大きかったものの、6月10月に社会見学やイベント開催での来場者数が増加し、総数としては、3月の来館者を加えると過去最高の来館者数といえる。

過去6年間の来館者となった内容を分析してみると、先ずは小学校の社会見学の来館校数が増えたことが主な要因。見学が開始された6月や10月は来校数が昨年と比較して16校増えた。また久留米市、鳥栖市の小学校の見学もあった。夏休みのイベント、バスツアーの開催回数の増加もあるといえる。館内のイベントとして「写真展」「雨と生き物展」「ペシャワール展」「防災グッズ展」等の管内利用促進も行った。図書閲覧室のスペースを利用して「佐賀城の石垣を調達した石丁場」の特集、「三重津海軍所跡を世界遺産に」の特集なども月替わりで開催した。しかし、来年度の小学校見学来館数は変動的であり確約されたものではない。限られた予算の関係の中で引き続き展示企画ができるものには趣向を変えて来館者の増加に繋げていきたい。

平成26年度来館者数の過年度との比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成26年度	2,334	2,145	2,245	987	1,060	2,101	3,448	1,242	455	970	1,000		17,987
平成25年度	2,502	1,969	1,124	1,571	1,681	2,407	2,452	1,380	541	970	952		17,550
平成24年度	1,762	1,715	1,079	754	1,123	1,797	2,717	1,436	787	958	979	2,507	17,614
平成23年度	1,854	1,772	1,227	1,100	1,220	1,748	2,552	1,605	711	852	786	1,307	16,734
平成22年度	1,439	1,782	1,281	1,321	1,569	1,241	3,218	1,650	777	497	776	1,151	16,702
平成21年度	1,504	2,012	960	1,093	1,613	1,089	3,068	1,799	762	900	814	1,381	16,995



2・石井樋地区歴史資料収集整理：

石井樋地区の歴史資料を収集し整理する。

○「嘉瀬川交流塾」で歴史テーマを取り上げ、講演資料を公表する

毎月1回テーマを定めて講演をお願いしている嘉瀬川交流塾の平成26年度のテーマとして、①嘉瀬川流域の歴史を学ぶ ②佐賀平野の水問題を考える、③災害に備える、の3テーマを掲げ実施した。表に示すように、歴史が5回、災害が3回、水問題が4回と、参加者の関心の高い歴史に重点を置いて実施してきたことがうかがえる。講演に用いられた配布資料、プレゼンテーション資料は、講演者の承諾を得てすべて収集保存し、資料を請求された方には、無料で配布した。これらの資料はいずれも貴重なものであるので、次年度以降、公表をどのようなシステムで行うかについて検討し、実施することが望まれる。

○「佐賀平野の水システムの継承と更なる活用について」

日 時 6月1日（日） 14:00～16:00

場 所 さが水ものがたり館

主対談者 宮地米蔵（久留米大学名誉教授）・正木裕美（元佐賀県農林部長）

牟田 香（佐賀県副知事）・川上義幸（前佐賀県副知事）

参加者 嘉瀬川交流軸会員 光武富雄・諸隈重臣・大串浩一郎・山崎日出男

田中慎一郎・遠田勝美・服部二朗

司会進行 荒牧軍治（さが水ものがたり館館長・嘉瀬川交流軸理事長）

（趣旨）

計画から40年を経て、平成24年3月に嘉瀬川ダムが竣工し、筑後川下流土地改良事業、佐賀導水事業と続いた佐賀平野の水システム再構築事業は、完成を迎えた。成富兵庫茂安が400年前に構築した水システムは、拡充・改変を繰り返しながらも、その基本構造は変わらずに運用されてきた。

嘉瀬川ダムの完成を機に、北山ダム、筑後川下流土地改良事業、佐賀導水、嘉瀬川ダムと続いた一連の水利事業に、企画の段階からかかわってこられた正木裕美氏と宮地米蔵氏に「佐賀平野の戦後水利事業を記録する」と題した対談を一昨年6月行っていただき、事業発想の原点、問題となった点、利害調整の経緯等について、主に正木裕美氏から詳しくお話を伺えた。

また、昨年6月には、水利慣行とは何で、近代の施設に新たな水利慣行を組み込んでいく知恵について、宮地米蔵氏からお話しを伺った。

今後の課題として、「人口減少社会」・「異常気象」・「生物多様性」と合わせ、農業（農林水産業）の将来も踏まえて、これら水利施設がどう生かされていくかを展望していく必要がある。

とりわけ、若い技術者には、筑後川流域での水利用の経緯について、理解を深めてもらうとともに、佐賀平野の水問題の解決能力を継承して行くための情報蓄積も重要であると考えている。

座談会テーマ)

- ◎ 佐賀平野の水システムの特徴について
- ◎ 成富兵庫茂安が築いた水システムの近代への継承について
- ◎ 新たな時代に求められる水システムの活用について
- ◎ 平成 27 年 (2015) 石井樋創建 (1615) 400 年記念に向けて

3. 郷土学習支援 :

郷土の偉人成富兵庫茂安を学びに来訪する小学生を対象に水の歴史と大切さ、怖さを伝えることを目的に、来訪する小学生を対象に郷土学習の支援を行った。郷土学習支援で話した内容は以下のようなものである。

- 1) 水には、命を奪い、建物を流してしまうような「怖い水」の面と、すべての生物にとっての「命の水」の両面があることを理解してほしい。東日本大震災の被害を大きなものにしたのは、津波と云う「怖い水」であり、避難所に逃げ込んだ人々に最初に配られた水は「命の水」の方である。
- 2) 佐賀平野で考えられる災害の多くは水に関連したもので、これまでにも、台風・洪水・高潮などで多くの命を財産が奪われた。
- 3) 生活用水、農業用水を確保するためにこれまでに多くの努力が続けられてきた。今から400年ほど前の武将・成富兵庫茂安は、佐賀平野全体に水を配るシステムをほぼ完成させ、佐賀では「水の神様」として敬われている。
- 4) 成富兵庫茂安が筑後川沿いに構築した「千栗土居」は、佐賀平野と佐賀城下を洪水から守ると同時に、広大な水田を確保することができた。しかし、久留米藩にとっては、自分の藩の方の土地の洪水危険性が増したこととなり、両藩対立の火種となつた。
- 5) 茂安は、有明海と佐賀平野を区分する松土居を設計・施工し、海からの高潮被害等を防ぎ、水田を確保した。また、3段のダム・永池堤(ため池)を設けて、白石平野の農業用水を確保したが、その後、江戸時代から、明治大正昭和にかけて干拓事業が続けられて来たため、白石平野は慢性的な水不足に悩まされてきた。そ

れを克服するためにポンプが導入されたが、副作用として広域的な地盤沈下が発生したため、新たな水の確保が必要となり、嘉瀬川ダムが建設された。平成24年3月、嘉瀬川ダムは完成し、6月から白石平野に水が送られるようになった。

- 6) 茂安が松浦川に築いた桃川の馬の頭は、伏越と呼ばれる逆サイフォンの原理を利用したもので、これほど大規模なものは非常に珍しい。
- 7) 取水施設・石井樋は、嘉瀬川左岸に送る水を嘉瀬川から引き込むための施設で、大井手堰、象の鼻、天狗の鼻、石井樋などの施設群からなっている。石井樋は、佐賀藩にとっては命綱なので、洪水や砂の堆積で施設が使われなくなるのを恐れて、様々な工夫が盛り込まれている。

小学生来館者数の推移

小学生の来館者の推移を次表に示す。

小学校来館者数の推移

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
平成26年度	佐賀市内	来館校数	0	0	4	1	0	5	7	5	1	2	0	0	25	
		来館人数	0	0	241	45	0	436	518	244	18	145	0	0	1647	
	佐賀市外	来館校数	0	14	1	0	0	9	24	3	0	0	1	0	52	
		来館人数	0	720	59	0	0	505	1680	255	0	0	85	0	3304	
	来館者数合計		0	720	300	45	0	941	2198	499	18	145	85	0	4951	
	平成25年度	佐賀市内	来館校数	0	0	0	2	0	4	2	7	0	3	0	0	18
		来館人数	0	0	0	145	0	356	96	300	0	213	0	0	1110	
		佐賀市外	来館校数	0	12	3	0	0	7	24	2	0	0	0	0	48
		来館人数	0	602	189	0	0	337	1316	174	0	0	0	0	2618	
		来館者数合計		0	602	189	145	0	693	1412	474	0	213	0	0	3728
	平成24年度	佐賀市内	来館校数	0	0	2	0	0	7	0	3	1	1	2	3	19
		来館人数	0	0	110	0	0	659	0	89	60	90	97	287	1392	
		佐賀市外	来館校数	0	11	5	0	0	7	22	5	2	0	0	0	52
		来館人数	0	604	335	0	0	381	1150	354	74	0	0	0	2898	
		来館者数合計		0	604	445	0	0	1040	1150	443	134	90	97	287	4290
	平成23年度	佐賀市内	来館校数	0	1	3	3	0	3	1	5	1	1	1	3	22
		来館人数	0	65	133	153	0	131	81	360	38	134	113	126	1334	
		佐賀市外	来館校数	0	10	6	0	0	6	24	6	0	2	0	1	55
		来館人数	0	674	315	0	0	448	1174	374	0	44	0	21	3050	
		来館者数合計		0	739	448	153	0	579	1255	734	38	178	113	147	4384
	平成22年度	佐賀市内	来館校数	0	0	2	0	0	1	3	3	1	0	0	1	11
		来館人数	0	0	82	0	0	10	196	94	20	0	0	49	451	
		佐賀市外	来館校数	0	14	5	0	0	7	29	5	2	0	0	0	62
		来館人数	0	656	351	0	0	306	1774	367	115	0	0	0	3569	
		来館者数合計		0	656	433	0	0	316	1970	461	135	0	0	49	4020

佐賀市内から来館する小学生数は、平成22年から平成23年にかけて、佐賀市外からの来訪者が500名以上減少したのに対し、佐賀市内からの来訪者が451名から1334名と、一気に3倍近く増加した。特に、佐賀市外からの来訪者が途絶える、1月～3月に佐賀市内からの来訪者があり、来訪者増加の要因となっている。この理由として、佐賀市教育委員会が、郷土学習のための交通費を確保し、計画ができたところに配分するシステムを確立したことにより、増加したものと思われる。今後、このシステムが維持できれば、市内の小学校の来訪者数は確保できるものと思われる。平成26年度は、総合的に見て来館者数は増加したが状況を細かく分析すると佐賀市内は市外に、佐賀市外は佐賀市に「バス旅行」を兼ねて出かける方向にあると思われる。特記すべきことは昨年度と比較し増加した要因の一つに、武雄市の宇宙科学館が改修工事中とのことで利用できなかったことが大きいと思われる。今後の来館者数を維持していく為には、佐賀市の貴重な宝である石井樋・成富兵庫茂安を次の世代に伝える為に、ぜひ石井樋見学に対する支援を継続して欲しい

嘉瀬川交流塾 :

表一に示すような日程で、毎月1回（原則第3土曜日）、嘉瀬川の歴史、自然、治水・利水等について、講話会を開催した。今年度は、次の3つのテーマで企画を行った。

- | | |
|-----------------|----|
| 1) 災害に備える | 2回 |
| 2) 嘉瀬川流域の歴史を学ぶ | 9回 |
| 3) 石井樋400年祭について | 1回 |

これまでのさが水ものがたり館の活動内容から、歴史に興味を持つ参加者はいつも多く、根強い人気を有している。東日本大震災以降の防災意識の高まりと、事業発注者の要請に応えるため、防災関係の講話の回数を確保した。

平成26年度嘉瀬川交流塾開催実績

開催日	時間	事業名	タイ	講師
4月19日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾 4月例会	成富兵庫茂安と石垣～佐賀藩の石垣構	石垣技術研究機構代表 高瀬 哲郎
5月17日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾 5月例会	有明海沿岸の高潮災害に備える	さが水ものがたり館 館長 荒牧軍治
6月21日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾 6月例会	佐賀平野はどのように形成されたか	九州大学理学研究院 下山 正一
7月19日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾 7月例会	安全と自然環境が共存する川 ～激特事業への取り組み～	九州大学教授 島谷 幸宏

8月16日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾 8月例会	源流の森を次代につなぐ	森林をくるくろう理事長 佐藤 和歌子 他
9月20日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾 9月例会	東アジアと倭 ～吉野ヶ里の国際的背景～	徵古館館長 高島 忠平
10月18日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾10月例会	民話が語る佐賀の水ものがたり ～人柱伝説について～	前さが水ものがたり館 館長 金子信二
11月15日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾11月例会	筑後川中流域4堰と世界農業遺産	筑後川まるごと博物館 平田 昌之
12月20日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾12月例会	歴史的水利施設石井樋は世界遺産に成	佐賀市文化振興文化財係長 谷澤 仁
1月17日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾1月例会	佐賀財閥の「大川口」進出とデ・レイ ケ導流堤	大川未来塾理事 本間 雄治
2月21日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾2月例会	水網都市Saga水を活かした街づくり	さが水ものがたり館 服部二朗
3月21日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾3月例会	石井樋400年祭に向けて	さが水ものがたり館 館長 荒牧 軍治

毎回、佐賀市報に開催日時、開催テーマ等の広報記事を掲載して、広く市民に参加を呼び掛けている。市報を見て初めて参加される方もおられて、講演終了後の意見交換会で「このような有意義な講演会を、無料で聞くことができて大変ありがとうございます」との意見も出るなど、参加者からは非常に高い評価を受けている。終了後にアンケートをお願いし、講演間に対する感想、今後開催して欲しいテーマなどを記載していただき、以後のテーマ設定に利用している。

今年度の参加者一覧を次に示す。40名定員での募集に対し6割程度の参加者にとどまっている。東日本大震災直後に開催した「東日本大震災から何を学ぶか」の講話には、60名近くの参加者があったが、防災関連の講話に対してもそれほどの参加者が確保できていない。1年以上が経過して、防災に対する意識も薄れてきているのかもしれない。固定的な参加者を確保する方法もあるが、わずか40名の会場なので、一般市民の参加を阻害する危険性もあることから、参加者募集の方法については総合的に検討する必要がある。

嘉瀬川交流塾 参加者一覧

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
38	31	37	24	24	32	17	19	22	32	28	26	330

○体験型学習会

■実施概要

嘉瀬川とその流域の河川環境について楽しく学び理解することを目的に、生物環境と歴史環境を中心に、主として石井樋公園及びさが水ものがたり館をフィールドに、合計13回の体験型学習会を実施した

対象者：一般市民・小中学生

第1回：7月6日（日） 「七夕・竹あそび」

参加者21名

昨年、このイベントでご指導を頂いた東脊振の多良正裕 NPO さんから塾代表の記録をもとに石井樋公園内の真竹の切り出し、水鉄砲、七夕飾りの政策等を開催した。

第2回：7月13日（日） 「嘉瀬川流域の植物探訪」

参加者8名

嘉瀬川流域の「絶滅危惧種」に注目して、植物観察会を行った。アンケートでは「たくさんの絶滅危惧種があつておどろいた」「危惧種を守るべき」「多くの方たちが知るべき」「開発と環境保存のバランスが大切だ」との意見を頂戴した。今回の植物探訪の一番の開催趣旨でもある「環境保全」、中でもバランスを保つ事が大切という感想は、とても有意義であったと思われる。まず楽しむこと、触れること、そして関心をもつ事それらが「環境保全の意識」に繋がった。子どもたちの参加により次世代へ受け継がねばならない環境を改めて認識でき意義のある開催となった。今後もこうした企画を増やすことで、より効果的な啓蒙活動となる。

第3回：7月21日（日） 「子どもの石井樋フェア・カヌー教室」

参加者22名

市報により公募した一般参加者を対象にインストラクターの指導の下行った。参加者の半数が嘉瀬川では遊んだことがないと答えている。川で遊ばない理由の多くは、「川は危ないと思っている」「川は危ないと学校や家庭で教わった」ためと考えられる。今回、指導者が準備した分かり易いビデオにより、川の楽しさとあわせて、どんな場所に危険性がひそんでいるかについての

理解が深まり効果的であった。

川の危険を学習し、安全に遊べる装具（ライフジャケット）の装着や操法（ロープ・ポートパドル）の指導を受けて、ほとんどがまた、参加したいとしている。「川の危険を知る事」「危険な場所をさける」ことを理解して、安全に遊ぶために「ライフジャケット、ヘルメットが必要な装備である」との回答を得ている。スタッフの体制に県、市行政職員の協力が得られたこと。

地域で、行政従事者が川で安全に楽しむ事を学んでもらう良い機会となる。今後の地域的な取り組みでのサポート体制の充実を図る上で大きい。降雨が続き、流下量も多かったため開催が危ぶまれた。水温が冷たく、流れの速いところ遅いところがあって、実際の水難への救助の難しさを参加者が理解された。時期を8月以降として継続的に取り組むべきである。

第4回：8月3日（日） 「嘉瀬川の水生生物観察会」

参加者30名

水生生物の観察・図鑑作成を通して嘉瀬川の水環境について理解を深めるために開催した。

河川に生息する生物は、上から見ただけでは分かりにくいが、川の中には多くの水生生物が生きていること。石の裏、水草の影など、それぞれが餌がとりやすく、敵に見つかりにくい場所を見つけて暮らしていること。あるものはトンボに変身して、大空に舞いあがり、あるものは同じ場所で一生を終える。

当日は降雨や流下量が多く、嘉瀬川の石井樋公園周辺での水生生物の採集は断念し、あらかじめ講師が採集した生物の種類を調べて、自分の生物図鑑を作るまでの一連の体験学習会を実施した。

8月10日（日） 「子どもの石井樋フェア・カヌー教室」

台風接近により、安全確保の為開催を中止した

第5回：8月17日（日） 「トンボ王国さがづくり～音無湿地トンボ観察会～」

参加者14名

音無湿地でのトンボ観察を通して水環境保全への理解を深めるために開催した。

嘉瀬川流域の上流に嘉瀬川ダムが平成24年3月完成している。その上流部に音無湿地が人工的に造成されている。音無湿地は、

水場に草花が生い茂るただ広いだけの空間で、多くの種類の植物や動物を見ることができる。水場を繁殖の場とするトンボも10種類観察することができる。

名前も特徴も知らなければただのトンボであるが、生き物にはそれぞれ名前がついており、それぞれ個性を持っていること。トンボを採集し、デジカメで撮影し、専門の先生の指導を受けて名前を知り、図鑑で調べて、自分だけのトンボ図鑑を作る。

音無湿地での動植物の生息状況をトンボを通して、多様な生物の生息する河川環境の保全状況への理解を深めるために行う。

第6回：8月24日（日） 「水を科学する～水で遊ぼう・生物観察」

参加者15名

生物の専門家及び荒牧館長他のスタッフで、水生昆虫の観察、水の力学（浮力・水圧・表面張力等）と藻類の顕微鏡観察を行った

第7回：8月30日（土） 「家庭でできる防災対策～1日だけは自分の力で生き延びよう～」

参加者27名

日本国中どこでも、いつでも災害が起こる可能性がある。佐賀で考えられる災害は、台風、洪水、高潮など、水の災害の起こる可能性が最も大きい。佐賀平野で発生する水災害でどのような被害が起こるかを知り、その災害に家庭でどのように備えておけば危機を乗り越えられるか。災害の各段階「被災前—そなえるー」「被災時—つかえるー」「被災後—しのげるー」で一緒に考え、実践学習を行った。

第8回：9月6日（土） 「観月会～秋の夜空を楽しもう～」

参加者6名

中秋の名月である秋の夜空を楽しむ為に土曜日に開催。この日は十三夜であったが、午後7時にさが水ものがたり館に集合して観月会を行った。太陽と地球と月の位置により三日月や満月になること、海に干潮と満潮が現れることなどを学習した後、天体望遠鏡や双眼鏡を用いて十三夜の月の表面を観察した。

第9回：9月23日（火・祝）「成富兵庫茂安の事跡を巡るバスツアー・蛤水道、一ノ瀬堰」

参加者42名

佐賀平野に残る成富兵庫茂安のゆかりの地（蛤水道・一ノ瀬堰

三千石)を巡り、我々が暮らす佐賀平野・筑後平野の水システムが、長い年月をかけ多くの人によって築きあげられたことを学習。

10月5日(日) 「石井樋公園ハーフキャンプ」

前日からの台風接近により、安全確保の為開催を中止した。

10月12日(日)「成富兵庫茂安の事跡を巡るバスツアー・羽佐間水道」は台風接近により、11月24日(月・祝)に延期。

第10回：11月2日(日)「嘉瀬川流域歴史ウォーク～水環境の多様な生き物についてまなぶ～」

参加者8名

成富兵庫茂安の時代と現在の流域治水を考えつつ、水環境に生息する多様な生きものについて学ぶために開催した。成富兵庫茂安は、嘉瀬川に石井樋を造るに際して、水利施設群(天狗の鼻、象の鼻、大井手堰、荒籠)や堤防の内と外に様々な治水機能の仕掛け(水害防備林、野越)を施している。石井樋公園、多布施川河畔公園から巨勢川調整池などをウォーキングにより巡り、成富兵庫茂安が佐賀平野の特性を踏まえて構築した、流域治水の事蹟と現代の治水施設について学びながら、治水利水施設の場に生息する生きものの多様性と水環境への理解を深めるために実施した。

第11回：11月24日(月・祝)「成富兵庫茂安の事跡を巡るバスツアー～羽佐間水道・大日堰他～」

参加者32名

定員一杯の講評を博する行事であり、その内半数が初めての参加と裾野も広がっている。事跡を点で紹介するのではなく、嘉瀬川・六角川・松浦川と各流域特性に応じて、なぜ施設が構築されたのかへの説明に力点をおき、その意味を理解して貰える事が出来た

第12回：11月30日(日)「成富兵庫茂安の事跡を巡るバスツアー～筑後川中流域4堰を巡る～」

参加者40名

九州の大河である筑後川流域に1600年代頃から、袋野、大石、山田、床島という4堰が構築されている。形は変えても今も尚、筑後川中流域の穀倉地帯を潤している。先人たちの構築技術と

現在の状況、またこの遺産を守り先人の偉業を後世に伝える為に筑後川まるごと博物館の平田昌之さんを講師に迎え、その取組等について話を伺った。

第13回：1月11日（日） 「石井樋探鳥会」

参加者36名

参加者の約6割が女性、子どもの参加は5名と少なかったものの、観察会に参加した9割以上がまた参加したいと希望している。野鳥の会の専門家によるフィールドでの丁寧な観察指導と多くの野鳥の観察が出来た事で、参加者に観察会の楽しみや満足度が高まった。一帯の水環境の多様性となっている、「石井樋水利施設群の複雑さ、堰上下流の水場の深浅、川の瀬と渕、水質の清濁、水際の植生、周辺の古木・竹林・草むら」などが、多くの野鳥の生息の場を与えていること。観察会を通して良好な水環境が多様な野鳥を育んでいることへの理解を深めることができた。野鳥の会では2006年から毎年、この一帯での観察記録を残しており、70種類近い多種多様な野鳥が生息・飛来していること。石井樋一帯が歴史的・自然的環境を継承し保全していることで、嘉瀬川流域での良好な水環境が創出されていることについて、野鳥観察を通して学ぶ絶好の場である。今後とも、継続的な観察会を通して、70種の野鳥の解説書を作成するなど水環境の学習効果を高めて行く必要がある。

■効果等まとめ

河川環境問題を多角的に学習することを目的に、5回の体験型学習会を実施し、参加延べ人数110名で、1回あたりの参加者数は18名であった。バスツアーは30名で募集したが、他のイベントはスタッフ数、施設・設備を考えて20名で募集したので、ほぼ定員の参加者を得ることができた。

アンケートに見られるようにいずれのイベントも好評で、水に触れあう体験型学習が持つポテンシャルの高さを感じることができた。特に、水を科学する、トンボを探そう、植物探訪と云った生物系のイベントは子供たちに好評で、子供を水環境問題に引き入れるには「生物」から入ることが有効であることが理解できた。

子どもの石井樋フェアで実施した「ライフジャケットを着けた川流れ」は、子供にとってばかりでなく、大人にとっても初めての体験で、水の流れを身体で退官し、流れに

逆らわず岸にたどり着くなど得られるものは多かった。水難事故防止の高い効果がみられる学習会であったが、安全確保のため参加者数と同じくらいのスタッフが必要なので、気軽にできないが、「象の鼻と天狗の鼻を巡る川流れ」は嘉瀬川を象徴するイベントに成長することができそうである

水恵無限を巡るバスツアーは、これまで佐賀平野を見続けてきた高齢者の方々に好評で、現在の水システムの完成までには多くの人の努力と長い時が必要であったこと及び嘉瀬川ダムの治水利水効果が十分に理解された。

体験型学習会は、水の持つ多面的な性質を学習するのには最も適した方法であり、参加者はおおむね内容を理解できたようなので、今後とも拡充していくことが望まれる。体験型学習会の経験を蓄積し、プログラム内容を充実して、教育機関や各種団体にそのノウハウを伝えることにより、嘉瀬川に多くの人が集まるきっかけとなる。これら体験型イベントを持続的に実施する際の最大の課題は、どのようにして若いスタッフを集めかかる。若いスタッフが積極的に参加しているイベントは、参加者にも活力を与えるかである。次のイベントへと繋がる種子となる。

○地域支援事業

1) 嘉瀬川の防災と水環境に関する市民連携「水の広場」活動

■実施概要

えびすFM「水の広場」 毎月第3金曜日18時～19時 合計12回
3町連携水環境復活事業 現地調査 2回の検討会議 シンポジウム1回

■実施場所

えびすFM「水の広場」 →えびすFMスタジオ(佐賀市白山)
3町連携水環境復活事業→県立森林公園（久保田町）嘉瀬公民館

■事業目的

400年前の成富兵庫茂安の時代から続けられてきた佐賀・白石平野の防災と河川利用に関する事業は、2012年3月に嘉瀬川ダムが竣工して、ハード事業としてはほぼ完

成し、今後の取組は、校区ごとの自主防災組織の構築、防災マップ作りなどの防災減災に向けた取り組みと、佐賀市内を網の目のように流れるクリークの環境維持用水の確保、水源地域と受益地の上下流交流等、市民を巻き込んだソフト事業へと重心が移ってきた。本事業は、市民、行政、市民団体が参加して、防災と河川利用の推進について情報を交換し、討議する「水の広場」を創設して以下の事業を行った。

■実施内容

1. えびすFM「水の広場」の番組放送

平成24年5月に開設された地域FM局（えびすFM）は佐賀平野全体で視聴可能であり、災害時に情報伝達機能を発揮することが期待されている。その広報媒体を用いて、地元住民に参加戴いて、地域の防災・利水・文化等に関する1時間番組を毎月1回、合計12回放送した。今年度は、佐賀市内の嘉瀬町、久保田町、鍋島町、循誘の識者に集まって戴いて、それぞれの地域の歴史、過去の水災害、今後の防災に向けた取り組みについて語って戴いた。

2. 3町連携水環境復活作戦

昨年に引き続き、嘉瀬川をはさむ嘉瀬町と久保田町と森林公園の上流部に当たる鍋島町のまちづくり協議会代表、公民館長に、森林公園の管理者である佐賀土木事務所、国土交通省の職員にも参加いただいて森林公園水環境創造検討委員会の討議を継続し、討議した成果を平成27年3月14日に、シンポジウムで公表した。

第1回 森林公園水環境創造検討委員会

平成26年9月3日（木）午後3時～5時 嘉瀬公民館和室

検討課題 作戦1： 蛍復活作戦を考える

- ・ 蛍復活のための水源（井戸）確保
- ・ 自然池までの水路の設計

平成27年度に向けた蛍の育成

作戦2： 自然池の水環境を改善する

- ・ 水の出入りを検証する
- ・ 水源（地下水・表面水）を探す
- ・ 全体設計を考える
- ・ 工程表を作成する

第2回森林公園水環境創造検討委員会

平成26年10月23日（木）午後4時～5時30分 嘉瀬公民館

関連事業として実施した「森林公園自然池の池干し」のプログラム、実施体制を確定した。

森林公園自然池の水質改善を考えるワークショップ

平成26年12月18日（木）午後4時から午後6時 嘉瀬公民館

- 1) 森林公園自然池の水質をどう考えるか
- 2) どうすれば自然池の水質を改善することが可能か
- 3) 池干し+生物調査についての報告

嘉瀬町・久保田町・鍋島町 3町連携水環境シンポジウム

「森林公園自然池の水質を良くするには」

日 時：平成27年3月14日（土）午後1時30分～午後3時30分

場 所：佐賀市嘉瀬町公民館

主 催：森林公園水環境創造検討委員会

協 賛：一般社団法人北部九州河川利用協会 嘉瀬公民館

プログラム

基調報告 「森林公園水環境復活作戦-これまでの取り組み」

荒牧軍治さが水ものがたり館館長

「森林公園自然池の水質調査結果の報告」

高垣和博佐賀県佐賀土木事務所街路公園課長

パネルディスカッション 「森林公園自然池の水質浄化作戦」

パネリスト： 鈴木茂和嘉瀬まちづくり協議会会长

副島靖夫佐賀県立森林公園公園長

矢ヶ部輝之NPO法人嘉瀬川交流軸

森林公園の水質の現状、水質改善策について、水質調査結果に基づき討論を行った。

関連事業

本事業と関連する事業として、NPO法人有明海ぐるりんネットの主催、認定特定非営利活動法人日本NPOセンターの共催により、「森林公園自然池の生きもの調査」事業を行った

平成26年11月22日（土） 午前9時30分～午後1時30分

佐賀県森林公園自然池周辺

「佐賀平野の生きものを学ぶ」 中原正登教諭（佐賀県立牛津高校）

池干し・魚の手づかみ（ビニールプール）

佐賀平野の生きものクイズ カレーパーティ

■事業実施効果

えびすFMの聴取者から、非常にわかりやすい話で水に関する理解が進んだとの電話があったとの報告を受けた。この事業による最大の効果は、ラジオという公共の電波を用

いて、自分の考えを述べることにより、社会的な責任が生じることで、以後の行動に弾みがつくことである。

嘉瀬川の両岸は、他の河川と同様、長い対立の歴史を有している。両岸の住民が共同で森林公园の環境改善に取り組むことは非常に珍しく先進的な取り組みと考えてよい。役所陳情型から、自分たちで考え、計画を練り、自分たちが参加して事業を行う「市民参加型公共事業」の先進事例として他のモデルとなるものと確信している

■開催事業に関するデータ

*えびすFM「水の広場」

放送出演者34名 聽衆者不明

平成26年度えびすFM「水の広場」実施実績

コーディネイター：さが水ものがたり館館長 荒牧 軍治
場 所：エスプラッツ内えびすFMスタジオ
番組提供：一般社団法人北部九州河川利用協会

回数	日時	ゲスト	ゲスト所属	番組タイトル
1	4月18日	竹下 泰彦	前佐賀市環境部長	水の文化を考える
2	5月16日	高瀬 哲朗	石垣技術研究機構代表	佐賀藩の石垣構築技術の歴史
3	6月20日	家永 安司	嘉瀬町在住	28年水害の嘉瀬町の被害を語る
		久米 久義		
		服部 二朗	NPO法人嘉瀬川交流軸事務局長	
4	7月18日	副島 和則	佐賀自然史研究会会長	東与賀町の歴史と未来を語る -ラムサール登録へ向けて-
		吉原 敏郎	東与賀「干渴の探検隊」スーパーバイザー	
		竹下 泰彦	前佐賀市環境部長	
5	8月15日	荒牧 軍治	NPO法人嘉瀬川交流軸理事長	石井樋400年祭へ向けて -成富兵庫茂安の人物像とその時代-
6	9月19日	久野 英徳	久保田まちづくり協議会会長	久保田町の歴史と未来を語る -久保田まちづくり協議会の取り組み
		三島 元春	元久保田町自治会長	
		夏秋 博隆	久保田保育園園長	
7	10月17日	鈴木 茂和	嘉瀬まちづくり協議会会長	嘉瀬町の歴史と未来を語る -水環境改善への取り組み-
		原田 進	嘉瀬まちづくり協議会	
		城野 真澄	嘉瀬公民館館長	
8	11月21日	服部 二朗	NPO法人嘉瀬川交流軸事務局長	川の魅力発見 -先人が残した貴重な遺跡群を後世に残すために-
9	12月12日	小城原 直	佐賀市勧興校区自治会長	佐賀市勧興地区の歴史と水ものがたり
		本間 雄治	NPO法人大川未来塾・みなくる佐賀理事	
10	1月16日	富田 紘次	鍋島報效会徵古館学芸員	石井樋築造400年祭に向けて -鍋島氏よもやま話-
11	2月13日	服部 二朗	NPO法人嘉瀬川交流軸事務局長	石井樋400年祭へ向けて -成富兵庫茂安の治績から現代へ-
		竹下 泰彦	NPO法人嘉瀬川交流軸監事	
12	3月20日	池田 一徹	佐賀市鍋島公民館長	佐賀市鍋島地区的歴史と水ものがたり -28水で破堤した嘉瀬川-
		山口 貢	鍋島地区福祉協議会会长	



本間雄治大川未来塾（左） 小城原直佐賀市勧興校区自治会長（右）
えびすFM「水の広場」 12月放送



第1回森林公園水環境創造検討委員会



第2回森林公園水環境創造検討委員会



第3回森林公園水環境創造検討委員会
森林公園自然池の水質改善を考えるワークショップ



嘉瀬・鍋島・久保田3町連携水環境シンポジウム

2) 出張出前講座

荒牧軍治さが水ものがたり館館長は、佐賀市内外からの要請に応じて「さが水ものがたり館館長」名で、合計23回の出張出前講座を行った。

平成26年度荒牧館長出張・出前講義一覧

日時	主催者	行事名	場所
4月12日	NPO法人SATOMORⅠ	NPO法人 SATOMOR整足記念式	さが水ものがたり館
5月11日	西川副まちづくり協議会	西川副まちづくり協議会総会	西川副公民館
5月13日	佐賀県長寿社会振興財団	ゆめさが大学大学院	アバンセ
5月14日	佐賀県建設技術支援機構	建設技術職員研修	佐賀市文化会館
5月20日	佐賀県長寿社会振興財団	ゆめさが大学大学院	アバンセ
5月21日	佐賀市	佐賀市自治会協議会総会	マリトピア

5月27日	佐賀市	平松清風大学	さが水ものがたり館
6月19日	初田公民館	防災講座	初田公民館
6月25日	嘉瀬公民館	防災講座	嘉瀬公民館
7月31日	佐賀県有明再生・自然環境課	鹿島市高齢者教室	中朝浦公民館
7月31日	全国高等学校農業土木教育研究協	全国高等学校農業土木教育研究協	グランデはがくれ
8月1日	諸富公民館	防災講座	さが水ものがたり館
9月5日	九州川のカレッジ実行委員会	九州川のカレッジ	国際医療福祉大学（大川）
9月20日	佐賀大学都市工学科楠志会	楠志会40周年記念事業	ホテルニューオータニ佐
9月27日	筑後川フェスティバル実行委	筑後川土木遺産・観光資源情報ネット・登信プロジェクト	大刀洗中央公民館
10月17日	佐賀市観光協会	観光ガイド講座	メートプラザ
11月9日	佐賀県防災士会	佐賀県防災士会研修会	嘉瀬川防災ステーション
11月20日	佐賀気象台	佐賀気象台研修会	佐賀気象台（合同庁舎）
11月25日	佐賀県長寿社会振興財団	ゆめさが大学大学院	メートプラザ
12月4日	久保田公民館	久保田公民館大学	久保田公民館
12月16日	佐賀県長寿社会振興財団	ゆめさが大学大学院	メートプラザ
12月19日	筑後川まるごと博物館	筑後川大学	筑後川防災施設くるめウ
12月21日	原の町公民館	原の町ふるさと塾	原の町公民館（神埼市）

○その他事業：

事業計画書に記載した事業以外に、佐賀の水に関連した事業を実施した

I 九州災害時救護・支援ネットワーク構築に関する基礎調査

実施日時 ①平成26年9月27日 「第1回九州河川災害ネットワーク交流会議」

実施場所 第28回筑後川フェスティバルin太刀洗

②平成26年12月13日「大淀川現地調査・大淀川流域ネットワーク
と意見交換会」

実施場所	宮崎市
③平成27年3月8日	「第2回九州河川災害ネットワーク交流会議」
実施場所	筑後川大学シンポジウムinくるめウス

■実施概要

近年の異常気象に伴う局地豪雨は、従来の河川管理者による施設計画を大きく上回る規模で発生し、水害リスクの増大を招いている。災害に対する減災の取組は地下自治体を中心に進められているが、災害発生時、行政担当者は災害対応に追われ、被災者の生活再建・事業再建の分野は災害ボランティアの活動に期待がかかる。また、被災地を復旧・復旧する激特事業においては行政と地元の「合意形成」が最も重要なプロセスとなる。平成24,25年度は平成24年7月に発生した九州北部豪雨及び平成18年の川内川豪雨、平成17年の五ヶ瀬川豪雨時における災害ボランティアの実施状況及び激特事業における地域で活動するNPO団体の果たした役割について現地調査を行い、その成果を九州河川災害ネットワーク交流会議で発表してきた。

今年度はこれらの成果を共有し、今後どのような活動に結びつけて行くかについて2回の九州河川災害ネットワーク交流会議を開催し意見交換を行った。

① 第1回九州河川災害ネットワーク交流会議

各河川で活動しているNPO法人、企業、国土交通省等の参加を得て、平成26年9月27日に開催された第28回筑後川フェスティバル in 大刀洗にあわせて九州河川災害ネットワーク交流会議を開催し、意見交換を行った。

基調講演

1) 復興に重要な日常の活動-川内川激特事業-

九州大学大学院教授 島谷幸宏氏

2) 災害発生時におけるNPO法人の役割について

NPO法人嘉瀬川交流軸 荒牧 軍治氏

3) 現場からの報告(福岡県トラック協会との連携)

NPO法人大川未来塾 古賀秀之氏

② 大淀川現地調査・大淀川流域ネットワークとの意見交換会

平成26年12月13日に宮崎市で開催された「大淀川流域ネットワーク10周年記念式典」に参加したのを期にNPO法人大淀川流域ネットワーク杉尾理事長に大淀川下流域の激特事業及び環境を考慮した川辺事業を案内して戴き、併せてNPO法人の平常時と異常時における活動のあり方について意見交換を行った。

③ 第2回九州河川災害ネットワーク交流会議

平成27年3月8日にくるめウスにおいて開催された筑後川大学シンポジウム時に九州河川災害ネットワーク交流会議の構成員に参加を呼びかけ、シンポジウム終了後、第2回九

州河川災害ネットワーク交流会議を開催した。本「九州災害時救援・支援ネットワーク構築に関する基礎調査」事業が平成26年度で終了することから、新たな調査活動業務について討議し、「歴史から学ぶ河川防災・河川環境のあり方」をテーマに活動を継続することを確認した。

■今後の方針

当初目的とした災害ボランティアな現状、あり方に関する基礎調査が終了したので、次年度以降は「歴史から学ぶ河川防災・河川環境のあり方」をテーマに、九州の各河川活動団体に地域河川に関する調査を呼びかけ、筑後川フェスティバル時に開催する九州河川災害ネットワーク交流会議でその成果を発表する事を第2回ネットワーク会議で確認している。



第1回九州河川災害ネットワーク交流会議（大刀洗）



基調講演 島谷九州大学教授



基調報告 荒牧嘉瀬川交流軸理事長



大淀川現地調査・大淀川流域ネットワークとの意見交換会



第2回 九州河川災害ネットワーク交流会議（くるめウス）

III 「秋の収穫 嘉瀬川ダム感謝祭」の実施

■実施概要

事業名： 秋の収穫嘉瀬川ダム感謝祭
期 日： 平成 26 年 10 月 25 日
時 間： 午前 11 時～午後 2 時 30 分
場 所： 佐賀市富士町 嘉瀬川ダム富士しゃくなげ湖畔「水恵無限」碑前広場
参加人数： 一般参加者数 150 名 スタッフ参加者 15 名 合計 165 名

■実施状況

午前 11 時より佐賀市金立金刀比羅神社権禰宜の導きにより神事を行った後、後藤信孝（元嘉瀬川ダム工事事務所長）が進行役となつて「秋の収穫 嘉瀬川ダム感謝祭」を行つた。荒牧実行委員長の開会の挨拶の後、田島健一白石町長が、水が白石町に送られたことに対する感謝の辞を、赤司邦昭佐賀副市長が地元富士町と嘉瀬川の水の恵みに対する感謝を述べられた後、重田音彦佐賀市議会議員、吉浦武徳嘉瀬川ダム利活用推進協議会会长のお二人から歓迎の辞を戴いた。

松永憲明佐賀市議会議員の来賓挨拶のあと、白石町の文化的遺産である「鉢浮立」と「餅つき」を奉納して式典を終了した。式典終了後、富士町民、白石町民、その他立会人として参加いただいた方々とで交流会を行つた。白石町と富士町の産物を使った数々の料理を「菖蒲御膳」の方々（富士町）が振る舞われる中、白石町に伝わる奇祭「餅すすり」の妙技が示された。感謝祭を行つた水恵無限碑が建つ広場脇に上下流交流のあかしとして白石町の町花である桜と富士町の町花であるシャクナゲを植樹したことが披露された。

また、11月18日の週に、嘉瀬川ダムにかかわりのある10自治会（西畑瀬、菖蒲、栗並等）に協力戴いて、感謝祭に向けた「おもてなし」清掃を実施していただいた

【事業実施効果】

公共事業に対して厳しい目が向けられる中、ダムの受益者がダムが建設された地元に出向いて感謝の念を述べ、ダムで長年住み慣れた土地を去らざるを得なかつた人々と交流することにより、嘉瀬川ダムのような地域にとってどうしても必要な社会基盤があることを社会に対して示す事ができた。今後の公共事業推進の一助になるものと確信する。



祝詞奏上



荒牧軍治感謝祭実行委員長開催挨拶



赤司佐賀市副市長感謝の辞



田島健一白石町長感謝の辞



宝島（むるしま）面浮立の奉納



夫婦石太鼓奉納（富士町）



餅つき奉納（白石町）



野草と玉葱の天ぷら（富士町）

6) 打ち合わせ協議

実施計画書に従い、本業務を円滑に実施するために、平成24年4月より2か月に1度、及び事業最終月の平成26年3月、合計7回次の事項について委託者と打ち合わせ協議を行う。

1. 事務局員の勤務状況及び業務内容
2. 館の利用状況
3. イベント等の実施状況
4. その他の必要な事項

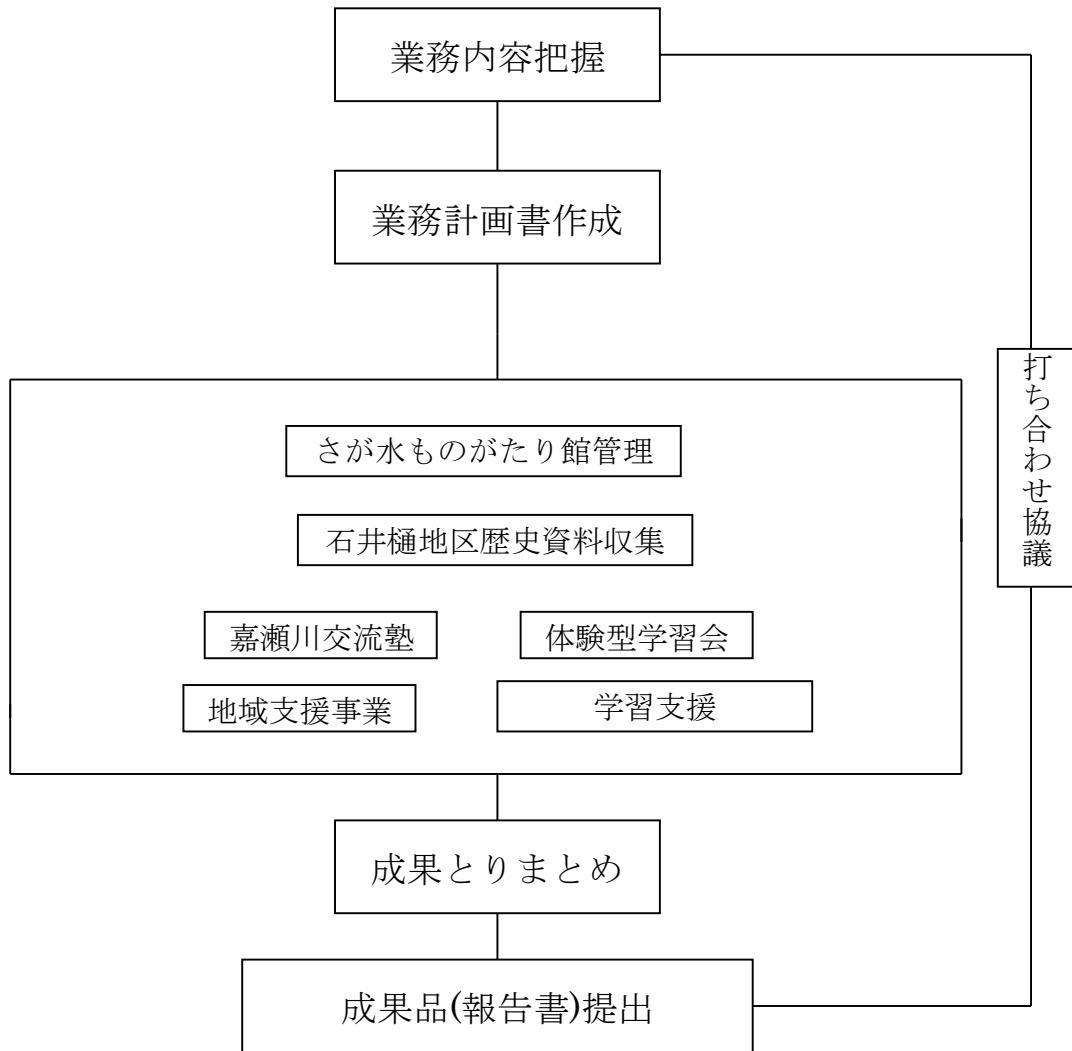
7) 業務工程

実施計画書に示した業務工程表に従って業務を実施した

業務工程表							
検討項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	備 考
業務計画策定	●	●					
打ち合わせ協議	●	●	●	●	●		
1)さが水ものがたり館管理	●					●	當時
2)歴史資料収集	●					●	随時実施
3)郷土学習支援	●					●	随時実施
4)嘉瀬川交流塾	●	●	●	●	●	●	
5)体験型学習会			●	●	●	●	
6)地域支援事業			●				

業務工程表							
検討項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備 考
業務計画策定							
打ち合わせ協議	●	●	●	●	●	●	
1)さが水ものがたり館管理	●					●	當時
2)歴史資料収集	●				●		随時実施
3)郷土学習支援	●				●		随時実施
4)嘉瀬川交流塾	●	●	●	●	●	●	
5)体験型学習会		●					
6)地域支援事業		●	●		●		
報告書作成					●	●	

8) 業務進行のフローチャート



9) 成果品

業務の成果品として、次の書類を、委託者に提出する。

- 1) 運営報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1式
- 2) 成果報告書（実施計画に従って実施した事業）・・・・・・・ 1式
- 3) 成果報告書（C D-R）・・・・・・・・・・・・・・・・ 1式
- 4) その他調査職員が指示する資料・・・・・・・・・・・・ 1式

10) 業務実施体制

本業務は、以下の体制で実施した

受託法人： 特定非営利活動法人嘉瀬川交流軸
〒849-0203 佐賀市久保田町新田 3714 番地5
電話 0952-68-3094 Fax 0952-68-3097
設立 平成 23 年 8 月 2 日 会社法人番号 3000-05-005962

運営責任者： 荒牧 軍治（NPO法人代表） 業務の総括・企画・運営
週 4 日程度、さが水ものがたり館に常駐し、小学生への説明、イベント
実施に当たる

スタッフ 1： 服部 二朗（NPO法人事務局長）業務の企画・運営
週 4 日程度、さが水ものがたり館で業務に当たった。
イベント企画・実施 歴史資料収集整理の責任者

スタッフ 2： 宮崎 順子（NPO法人職員）業務の企画・運営
週 5 日程度、さが水ものがたり館で業務に当たった。
イベント企画・実施

上記スタッフ以外に、さが水ものがたり館の管理補助及びイベントの運営に当たって
は、学生等アルバイト及びNPO法人理事・会員を参加させた。